

新た

「文明開化の朝に」

あした



廣瀬将嗣さん
(上町1)

成人式を境に何かが変わるわけではない。けれどここ一、二年で、自分が大いに变化したことは確かである。
大人に近づくにつれて自分を取り巻く世界はどんどん広がっていく。それに伴い「自分は決

してかなわないと思う人」との出会いが増えてきた。自分の能力のなさ、至らなさを痛感する。社会に埋没しそうになる。必死に抵抗し、自己の有りようを模索しようともがく。ここ数年、こんなことの繰り返しである。だが逆に考えてみれば、「自分はかなわない」と思えるくらい、他人の長所を素直に認められるようになったとも言える。他人の良い点を積極的に吸収しようと努めるようになった。こんなふうには、ここ数年で自分の身に起こった変化はまさに

劇的なものであった。旧来の価値観が全く通じなくなったという意味で「明治維新級」と呼んでもいいくらいだ。

これからの人生にも多様な事件が待っていることだろう。太平洋戦争があればオリンピックもあろう。けれどそのたびに自分は成長して行くのだから怖れずに前進するのみである。何だか実験的な人生だけだ。

「めっちゃめっちゃ嫌なことばかりだったけど、生きてて楽しかったよ」――今まで二十年間支えてくれた親や友人に送る、二十歳の春の言葉。

明日からも楽しい日々が待っている。さあ頑張ろう。

「抱負」



宇井菜那さん
(栗山南部2)

通過してみて初めてわかる思いや気持ちというものには必ずあり、私にとつての成人式はまさしくそのひとつになる。
故郷・横芝の学舎を巣立ってから決して短くはない歳月を経

て再会した笑顔は、どしゃ降り
の雨をしのぐ晴れやかさそのもの
のだったことがとても嬉しかった。
式典、というはどうしてもつきま
さまとう儀式的なイメージはその
空気に触れ「違う」とわかった。
皆は何を想ったのだろうか。
私は、あるひとつの決意だった。
今までなにかと言えば、私の好
き放題を叶えてくれた上に、その
裏にある「責任」までも請け負
ってくれた人がいた。私の

場合は、母である。
とかく「自由」を優先すること
ばかりに目が行ってしまいがち
な昨今だが、自分のしたいこと
とをするにはそれに対しての
一切を請け負う覚悟がなければ
ならないと思う。現在の国内の
情勢にも相通することではない
だろうか。
私が決意したのは、この表裏
一体を基盤にして前進していく
心づもりである。平担ではない
であろう道を引き返さない勇
気を持つことである。
最後に、この場を借りて日頃
よりお世話になっている方々
にお礼申し上げます。



雨に濡れないよう気遣いながら



「今何してるの?」「元気だった?」
そんな言葉がたくさん聞かれました